

企画事業「青少年を対象とした事業」

## 「日・タイ青少年交流事業」

平成22年10月17日(日)～10月27日(水)

(10泊11日)

協力 学校法人沼津学園 桐陽高等学校



### I 事業の背景

国際化が進む社会構造の中で、日本の青少年が異文化を理解し、諸外国の青少年と協調できる資質を育むことは、これからの社会において重要なことである。特に東南アジアは、日本にとって歴史・文化・国民性においても欧米諸国より近い存在であり、同じ地域に住む若者としてさらに交流を進めていく必要があると考え本事業を企画した。

### II 事業の概要

#### 1 趣 旨

日本の高校生とタイ王国の高校生・大学生が互いに交流を深めることにより、文化や習慣の違いを学び合い、国際理解を深める機会とする。

**2 参加対象** タイの高校で日本語を学んでいる高校生 40名

**3 参加状況** 参加人数30名(男8名・女22名)

#### 4 企画のポイント

日本の自然や文化、習慣をより深く理解するために、中央青少年交流の家の立地条件を活かした「富士登山」や地元の高校への授業参加、ホームステイ等を取り入れた。

#### 5 実施状況・参加者の様子

10月17日(日)

・日本へ向けて、スワンナプーム空港発

10月18日(月)

・日本(成田)→中央青少年交流の家へ移動  
・ウェルカムパーティー

10月19日(火)～10月21日(木)

・ホームステイ  
・日本の高校生活体験(桐陽高等学校)

10月22日(金)

・日本の高校生活体験(桐陽高等学校)  
・文化交流会(桐陽高等学校)



【ホストファミリーとの出会い～桐陽高校～】

10月23日(土)

・自然体験「富士山ハイキング」

10月24日(日)

・箱根散策、温泉体験  
・さよならパーティー

10月25日(月)

・東京都内散策～浅草・原宿～

10月26日(火)

・TDL見学

10月27日(水)

・お台場散策  
・タイへ帰国



【桐陽高校での書道体験の真剣な様子】



【日本の生徒の中に溶け込んでいた高校での授業】



【すっかり冬装備での富士山ハイキング】

### Ⅲ 事業ノウハウ

#### 1 広報

- ・広報については、近隣の高等学校の中で国際交流に関心の高い学校（学科やコースがある、その学校が海外でホームステイをしている等）を中心にあたり、比較的自由度の高い私立の高校と連携をすることができた。
- ・学校での交流以外の部分におけるプログラムについては、御殿場市の商工観光課から情報を得て、市内の工場見学などで実施することができた。

#### 2 プログラム

- ・この事業では、タイ側からの要望でホームステイを最低でも3泊したいということを中心にプログラムを組んだ。その中で、タイの学生が授業に参加したり、桐陽高校の生徒会が中心となって交流会を計画・実行したことで、タイの文化に対する興味や関心が増し、相互により影響を受け合ったと言える。
- ・ホストファミリーとの出会いを日曜日に設定したことで、まずは家族内での交流からスタートすることができた。
- ・ホームステイや学校での交流をとおして、日本の文化を感じるなど成果は得られたが、より深い交流を目指すために、両方に共通するテーマを決め、それぞれの意見交換や討論会等を行い、その成果を各国（各校）で広める活動を行うなどして、事業後も継続的に交流を続けることができるような配慮をしたい。
- ・タイの生徒たちは日本の文化を学ぶ目的を持って参加しているので、どの活動に対しても積極的に参加していた。特に、「温泉体験」は生活習慣の違いから、初めのうちは少々ためらいも感じていたが、いざ入るとみんなとても気に入って、好評であった。しかし、「富士山ハイキング」は寒さが増す時期であり、プログラムを活かすのであればもっと早い時期での交流を検討したい。

#### 3 成果を引き出す工夫

- ・事前に日本・タイの生徒たちの両方にプロフィールを書いてもらい、それをもとにホストファミリーを決めて情報提供をすることで、スムーズな受け入れができた。
- ・ホストファミリーについては、桐陽高校の協力で募ることができた。（高校側にホームステイの意識が高いと理解が得やすい）



【日本の文化「温泉」体験】

担当：企画指導専門職 洲永 康弘